

デートDV防止教育研修

～子どもたちを加害者にも被害者にもさせないために～

1. ひこばえのご紹介

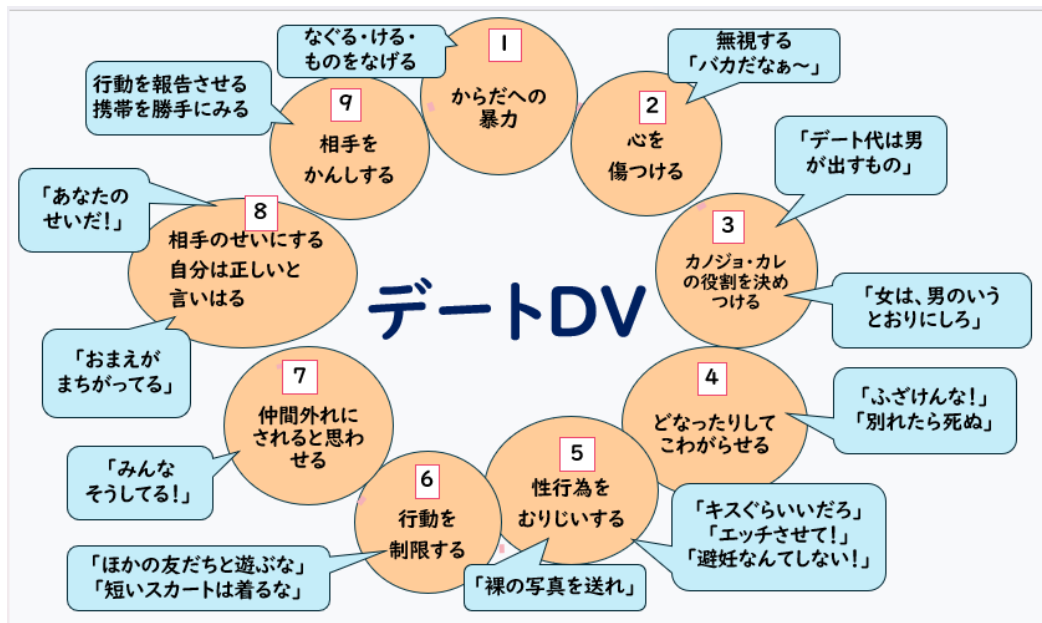
2. デートDVとは

○交際相手「 」暴力 *「」に記入してください

《意識チェック》

- ① 女のくせに、男のくせに、と思ったことがある
- ② 彼氏、彼女はこうあるべきという理想がある
- ③ 付き合うならお互いを束縛するのは当たり前
- ④ 愛情があるから嫉妬する
- ⑤ 親のスマホは勝手に使っても問題ない
- ⑥ 理由があれば少しくらいの暴力は仕方がない
- ⑦ 暴力を見たり聞いたり、体験したことがある
- ⑧ 一方的に怒鳴ったり怒ったりしたことがある
- ⑨ やられる側にも責任がある

《デートDVの具体例》



《画像拡散防止申請サイト》

Take it down.

<https://takeitdown.ncmec.org/ja/>



《デートDVの特徴・危険性》

- ・DVサイクルを繰り返し被害者を精神的に支配する
- ・エスカレートし、進行するほどに孤立しやすくなる→早期対応が必要
- ・周囲が問題に気がつきにくい→早期対応が難しい
- ・被害に気付かない/自分が悪いと思う被害者が多い

- ・加害者は加害意識がなく自分が正しいと思っている
- ・加害者の交際するまで顕在化しない問題行動→事前防止が難しい

《DV 加害の要因》

間違って学んだ「当たり前」

- ①暴力容認・力と支配
- ②ジェンダーの偏見
(ジェンダーバイアス)
- ③間違っただ恋愛観
- ④コミュニケーション方法

3. より良い人間関係をつくるために

《学び直すべきポイント》

- ①ジェンダー平等・性教育
- ②コミュニケーション
- ③恋愛とは

《ジェンダー平等・性教育》

国際スタンダードと日本の違い

- ・国際セクシュアリティ教育ガイダンス

日本語訳が掲載されているサイト

SEXOLOGY <https://sexology.life/world/itgse/>

- ・学生自身でも学べるサイト

セイシル <https://seicil.com/>

amaze <https://amaze.org/jp/nihongo/>

《コミュニケーション》

- ・対話の重要性
- ・怒りとの向き合い方

《恋愛とは》

- ・交際や結婚の相手が人生の幸福度に大きな影響を持っている

- ・良い交際関係とは

「誰のものか」の把握・線引き

「愛」とは何か

*DV 加害者の多くが愛を言い訳に暴力をふるう

《ワーク》

- ・本当の愛とは何か

・良い交際関係とは

《若者の性に対する調査》

ヤフーニュース記事

<https://news.yahoo.co.jp/articles/5b2d5b6eb57b34b31a305fb33c76bf42856b9340?page=6>

4. 生命の安全教育について

・デートDVの表現

相手からの暴力→相手への暴力

暴力が起こるカップル間で力関係が変わっているように見える→力関係は固定される

・恋愛観

「距離感」という表現 近づくことが悪いことのように感じる

・ジェンダー、セクシュアリティ視点

男女が前提に見える(LGBTQ+への配慮不足)

被害者・加害者の表現にジェンダーバイアス

5. 具体的な防止策と発覚時の対応

《防止策》

・交際前の防止研修実施

・オープンに話せる関係づくり

《発覚時への備え》

・組織としての対応マニュアル作成

・相談できる専門機関、専門家の把握

《被害者にやってはいけないこと》

・否定する

・指図する(別れなさい、親に相談しなさい)

・暴力を軽く考える(そのくらいよくある、付き合ってるならしょうがない)

・責める(なんでもっと早く言わなかったの?、なんで別れないの?、あなたが選んだ人でしょ)

・相談者の了承のない行動(親には言わないでと言われたのに親に話す)

・加害者を悪くいう(最低な人だ、ダメなやつだ)

《被害者にすべき対応》

・話してくれたことへの感謝と敬意を示す(ありがとう、勇気が必要だったね)

・じっくりと話を聴く(共感、あいづち、効果的な質問)

・被害者は悪くないことを伝える(被害者は自分を責めがち、自尊心が低下していることが多い)

・被害者を信じる(言っている内容だけでなく、自分で考え決められると信じる)

・別れられない心理・状況を理解する(共依存ではなくトラウマティックボンディング、恐怖心)

- ・どうしたいのか聴いて一緒に考える(どうしたいか本人の意思を確認しそのためにどうするか)
- ・暴力であると気付くための情報提供(気づきを促す)
- ・専門家に相談できるようにサポートする

《加害者にやってはいけないこと》

- ・暴力行為への共感や同調・同情(少くくしょうがない、相手も悪い、怒鳴りたくなる気持ちはわかるけど怒鳴ったらそれは暴力だとはっきり伝える)
- ・頭ごなしに叱る(加害者なりの理由や傾向があるため、その場で押さえつけても根本原因から変わらない限り同じことを繰り返す。頭ごなしに叱ること自体が暴力を肯定することになる)
- ・人間性の否定(生活の中で培われた常識や価値観によるもの、性格の善し悪しではない、加害者自身がダメなのではなく暴力を選ぶことがダメ)

《加害者にすべき対応》

- ・じっくりと話を聴く(まずは口を挟まない)
- ・行為が暴力・犯罪であることを認識させる、情報を提供する(自分は正しいと思っていることが多い、暴力と認識することが更生へのスタート)
- ・暴力以外の解決策を選べるサポート(暴力を選びやすい思考パターンを変えるために正しいコミュニケーションや恋愛観を学ばせる)
- ・DV 被害者でもある可能性を忘れない(自身の体験が DV に繋がっていることがある、家族の状況を確認しながら親への相談等の対応を検討する)
- ・一緒に考える(自分で気づき考え変わっていくことを促す)
- ・専門家につなぐサポート(間違った価値観や感覚を一人で変えることは困難)